

被災地の動物診療語る

中区市獣医師会が年次大会

浜松市獣医師会は5日、第2回年次大会を浜松市中区のホテルで開き、「動物の災害対策を知ろう」をテーマにセミナーを行った。一般市民を中心に約250人が参加し、被災地の動物診療やペットに関する災害時への備えなどについて学んだ。

獣医師の小川篤志さ



熊本地震の被災地で動物診療に当たった経験語る小川さん
＝浜松市中区

んは、熊本地震の被災地を動物用の移動診療車で巡った体験を語った。避難所でストレスをためた避難者から「犬を連れていけるやつは出て行け」と言われ、多くの飼い主がペットとの車中泊を余儀なくされたという。小川さんは、動物の治療を通じて避難所で居場所を失った飼い主の話を親身に聞くなど「獣医師も人を助けることができるのだと分かった」と振り返った。

災害時に必要な心構え、ペットへのしつけを紹介する講演もあったほか、動物病院を再現した医療機器の展示ブースも来場者の注目を集めた。